

# すまいるたん



第241号  
平成25年  
2月14日

## はい！東京新聞です 取材現場のつちやまき



今ごろ年賀状の話題で恐縮ですが、

もう何十年も年賀状をやりとりさせて  
いただいている方の一人に、最近まで南  
千住にお住まいだった方がいます。

この方から、以前、住んでいた栃木県へ  
引っ越されたというお知らせのはがきを  
いただきました。喪中でいらしたので、  
年賀状ではなく、お正月が明けてから、  
寒中お見舞いとしていただきました。

この方は、すでに引退されていますが、  
長年、海外を舞台にした新聞記者として  
活躍された、私の大先輩です。私は、あ  
る縁があつて学生時代、新聞記者を目指  
して勉強していたころ、この方と知り合  
う機会に恵まれ、文章を書く上でのアド  
バイスなどをいただいていた時期があり  
ます。現在でも、お会いすると、「○○  
先生」とお呼びしています。

はがきの末尾に、南千住にお住まいの  
ころは、東京新聞に折り込まれてくる  
「すまいるたん」の、私のこの拙文を  
楽しみにされていたと、手書きで書き添  
えて下さいました。お世話になった恩師  
である大先輩の、肉筆でのお言葉、たい  
へん感激しました。

私は、年賀状はもちろん印刷ですが、

その年賀状の片隅に、肉筆でのひと書きき  
をなるべく書き添えるよう、心がけていま  
す。自分自身、先ほどの大先輩からいただ  
いたはがきのように、手書きのひと言があ  
ると嬉しいものだからです。

ただ、文章を書くことを生業としている  
私たちも、肉筆で文章を書く機会が減つて  
います。

私が東京新聞の記者になつた昭和六十二  
年は、まだ原稿は手書きで、B5判の専用  
の原稿用紙に、万年筆やボールペンなどで  
書いていました。

数年後にはワープロが主流になり、今で  
はすべてパソコンで書いています。若い記  
者は、取材メモもパソコンを使うことが多  
いようです。

私も必要に応じてパソコンで取材メモを  
打つことはありますが、やはりメモは、手  
書きの方が好みです。パソコンですと、打  
ち慣れていれば、相手が話したことすべて  
を書き取ることが可能です。それは手書き  
では難しいことですが、その代わりに、相  
手の話したことで大切だと思うことを聞き  
ながら判断して、選んで書き取ったり、相  
手が特に強調したこと、微妙なニュアンス  
で言ったことを、それと分かるように書く  
ことができます。例えば書いた言葉に下線  
や丸を付けたたり、大きな文字や強い筆圧で  
書いたり。こうして書いた取材メモのほう  
が、記事にまとめるときに役立つことが多

いのです。

ただ手書きメモで不便なのは、保管や検  
索です。パソコンで打つたメモならデー  
タで保管し、キーワードで検索してすぐ引き  
出すことができますが、手書きメモではそ  
れは無理ですし、大量のメモ帳は保管場所  
に困ります。

要はうまく使い分ければいいのですが、  
最近の若い記者はパソコンに頼りすぎでは  
ないかという気がします。

もともと新聞は、いち早く情報を伝える、  
現場の生の様子を伝える、といったことに  
関しては、テレビに勝てません。増して最  
近は、インターネットで記者会見や現場の  
様子などの生中継する動画サイトもありま  
す。

それでも、現場の空気や臭い、登場人物  
の話の行間、背景など、映像や音声では伝  
え切れないことを表現できる文章で新聞記  
事を書ければ、テレビやネットに負けない。  
そのような記事を書くには、手書きメモが  
重要ではないかと思っています。そんな原  
稿を日々、書けているかと言われると、心  
もとないですが…。

テレビやインターネットも大切だが、や  
はり新聞を読んで分かることがたくさんあ  
る。そう思っていただけのように、努力を重  
ねてまいります。

(東京新聞 社会部 部次長  
〔前・したまち支局長〕 榎本哲也)